

令和7年上半期における交通死亡事故の発生状況

令和7年7月29日
警察庁交通局

【概況】

交通事故死者数の推移

- ・死者数は1,161人で、前年同期比21人、1.8%減
- ・65歳以上の死者数は659人で、前年同期比9人、1.4%増

〔特徴〕

- ・状態別死者数は全年齢で、「歩行中」は減少、その他は増加
- ・状態別死者数は、全年齢、65歳以上ともに「歩行中」が最多、小学生は「自転車乗用中」が最多

令和7年上半期の交通事故発生状況

○ 歩行者

- ・歩行中の死者数は4年ぶりに減少しており、65歳以上の高齢者の割合は約7割で推移
- ・65歳未満は「路上横臥」が多く、65歳以上は「横断歩道以外横断中」が多い

○ 自動車～高齢運転者

- ・75歳以上高齢運転者による死亡事故は増加
- ・事故類型は75歳以上高齢運転者は車両単独の構成率が最も高く、75歳未満の約1.7倍

○ 自動車～外国人運転者

- ・外国人運転者による死亡・重傷事故は近年増加傾向
- ・国籍(地域)別の構成率は、韓国・朝鮮、中国、ベトナム、ブラジル、フィリピンが全体の約7割

○ 自動車～飲酒運転・携帯電話等使用

- ・飲酒運転による死亡事故は近年横ばいで推移
- ・携帯電話等使用による死亡・重傷事故は近年増加傾向

○ 自転車

- ・自転車乗用中の死者数は減少傾向にあるが、法令違反ありの割合は約7割から8割で高止まり
- ・事故類型は車両相互の出会い頭が最も多い

○ 特定小型原動機付自転車

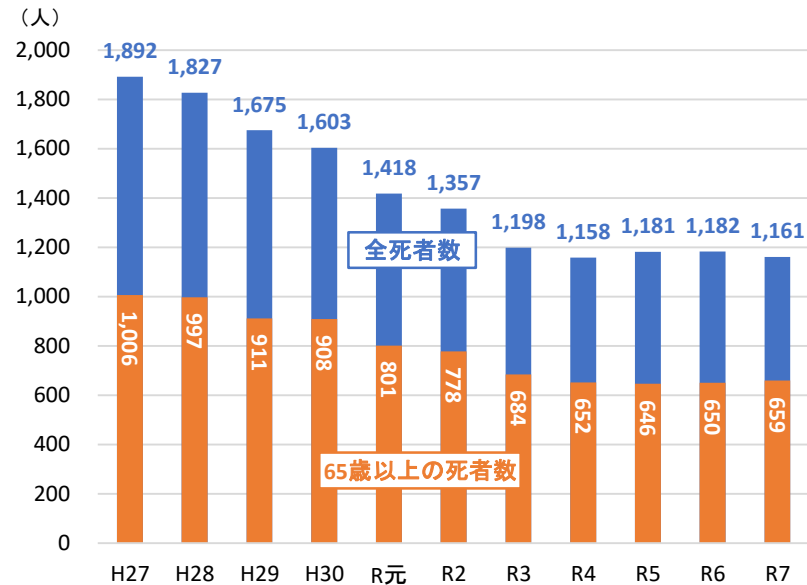
- ・運転者の年齢層は20歳代～30歳代で約7割を占めている
- ・飲酒ありの構成率は約2割で、一般原付の約30倍、自転車の約22倍

(注)・本資料は、令和7年7月16日までに入手したデータにより作成したものである。
・数値は、単位未満で四捨五入してあるため、合計等が内訳の数値と一致しない場合がある。
・令和7年の重傷者、軽傷者数は暫定値である。

1 交通事故死者数の推移

- 死者数は1,161人で、前年同期比21人、1.8%減
- 65歳以上の死者数は659人で、前年同期比9人、1.4%増

交通事故死者数の推移【各年6月末】

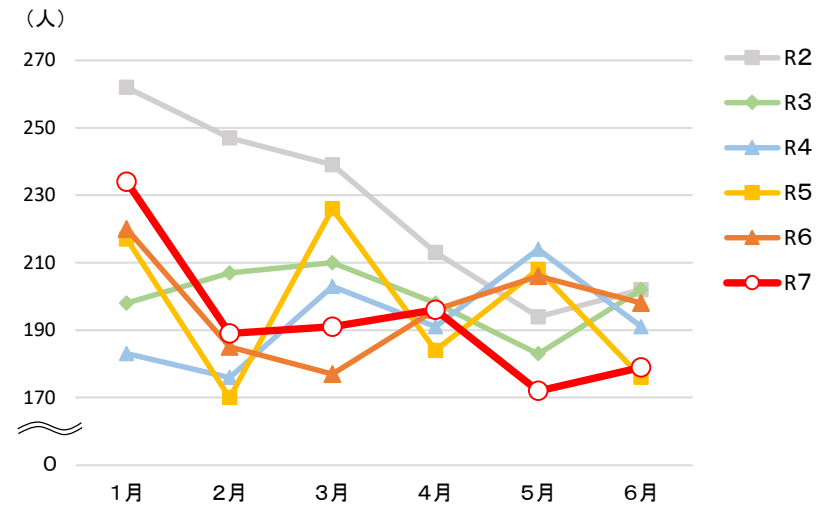


高齢者の割合	53.2%	54.6%	54.4%	56.6%	56.5%	57.3%	57.1%	56.3%	54.7%	55.0%	56.8%
--------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

高齢者の人口(千人)	33,866	34,590	35,151	35,580	35,884	36,027	36,213	36,236	36,224	36,243	—
全人口に占める高齢者の割合	26.6%	27.3%	27.7%	28.1%	28.4%	28.6%	28.9%	29.0%	29.1%	29.3%	—

(注)・人口は、総務省統計資料「人口推計」(各年10月1日現在人口(補間補正を行っていないもの。ただし、国勢調査実施年は国勢調査人口(不詳補完値)による。))による。以下同じ。

月別交通事故死者数の推移



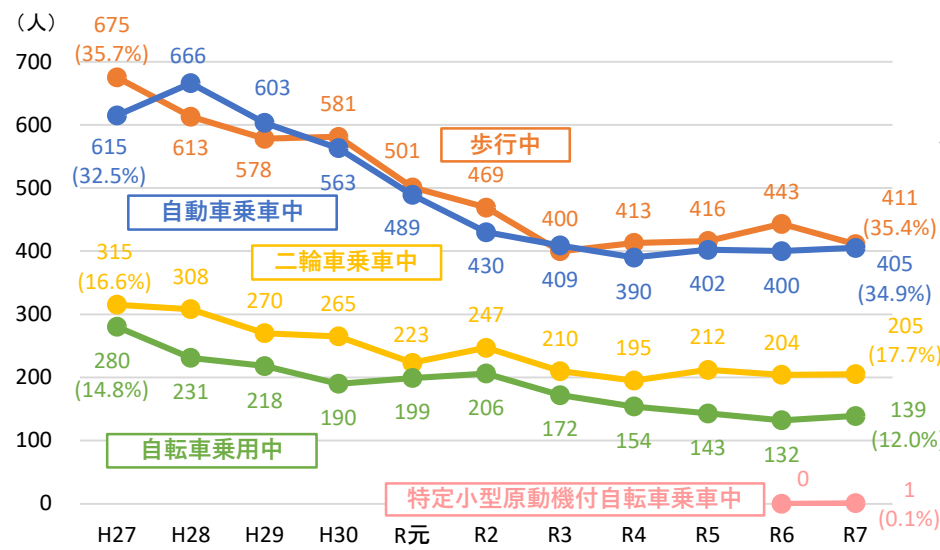
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	合計
R 2	262	247	239	213	194	202	1,357
R 3	198	207	210	198	183	202	1,198
R 4	183	176	203	191	214	191	1,158
R 5	217	170	226	184	208	176	1,181
R 6	220	185	177	196	206	198	1,182
R 7	234	189	191	196	172	179	1,161
増減数	14	4	14	0	-34	-19	-21
増減率	6.4%	2.2%	7.9%	0.0%	-16.5%	-9.6%	-1.8%

(注)・増減数(率)は、前年と比較した値である。

2 状態別交通事故死者数の推移

- 状態別死者数は全年齢で、「歩行中」は減少、その他は増加
- 状態別死者数は、全年齢、65歳以上ともに「歩行中」が最多、小学生は「自転車乗用中」が最多

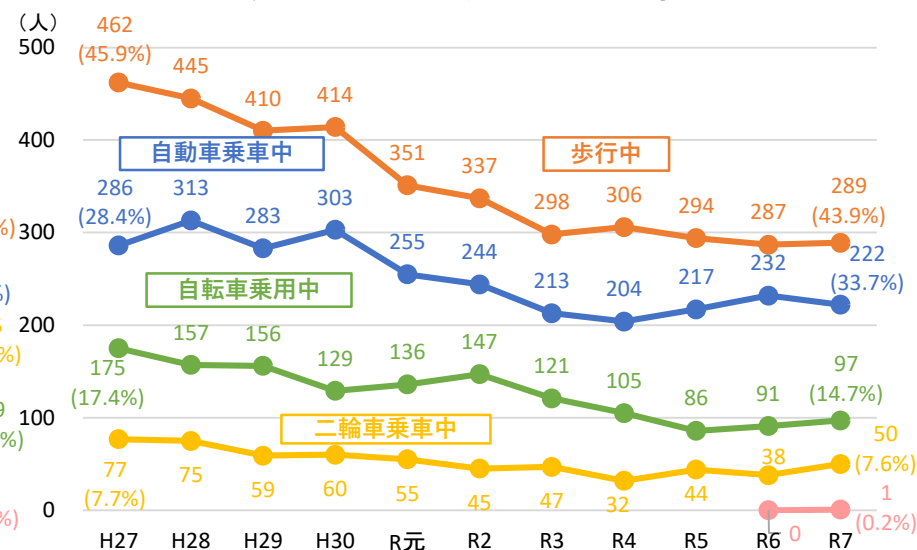
状態別死者数の推移（全年齢）【各年6月末】



(注)・()内は、全死者数に占める構成率

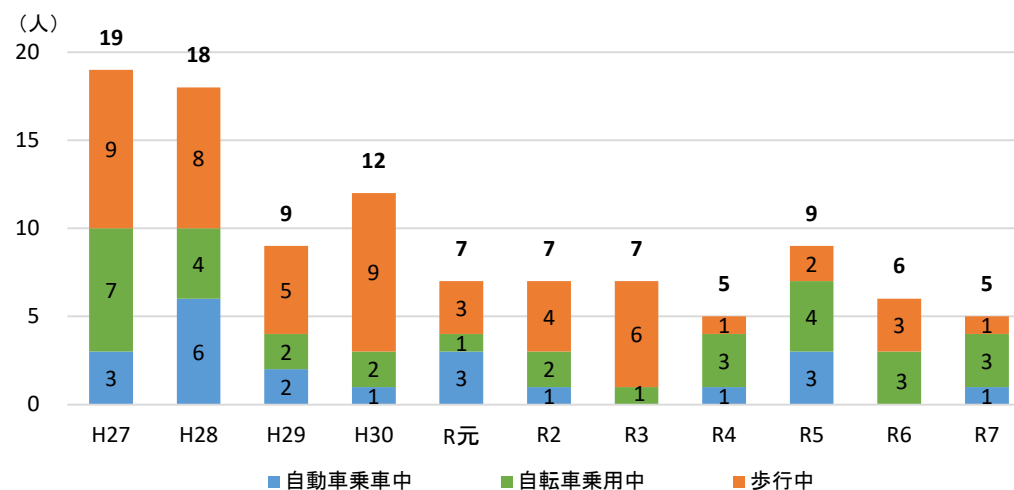
・「二輪車」は、自動二輪車及び一般原動機付自転車(令和5年は特定小型原動機付自転車を含む、以下同じ。)をいう。

状態別死者数の推移（65歳以上）【各年6月末】



特定小型原動機付自転車乗車中

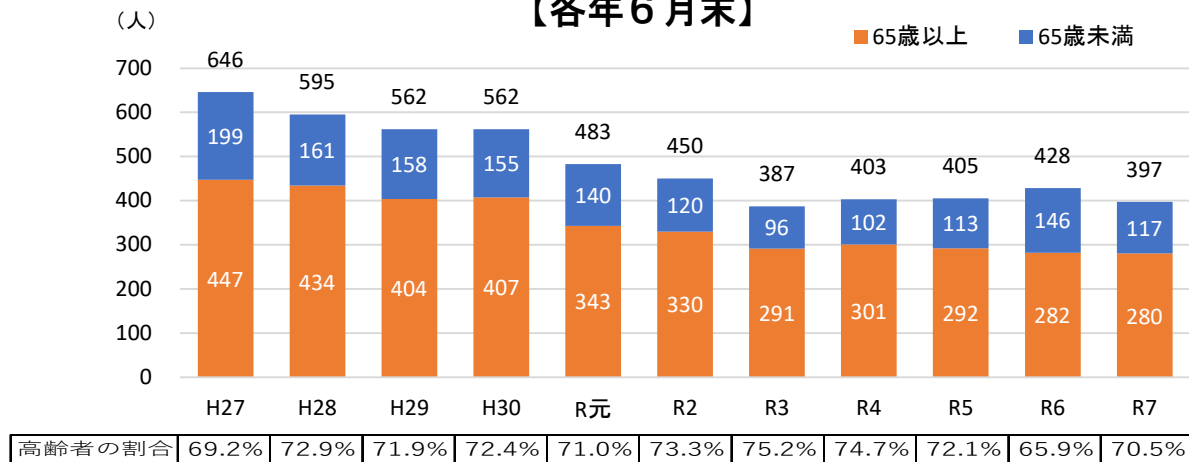
状態別死者数の推移（小学生）【各年6月末】



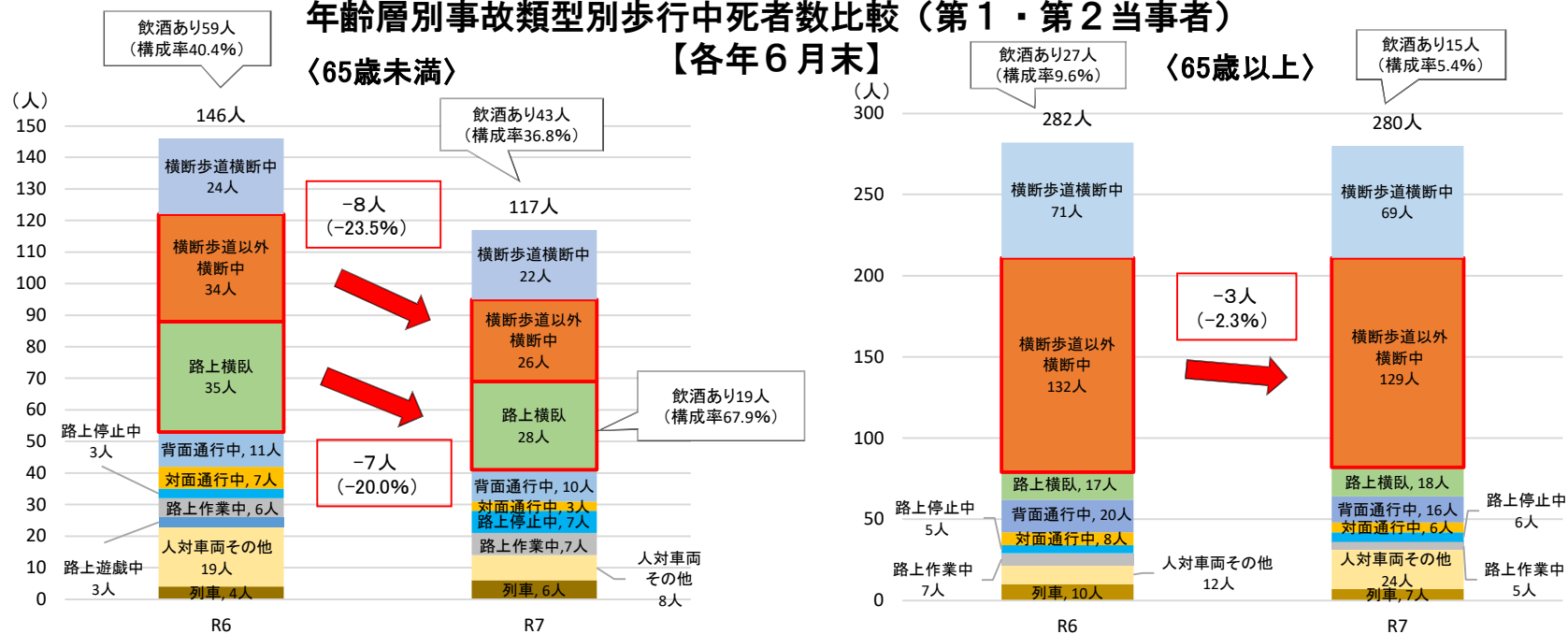
3 歩行者

- 歩行中の死者数は4年ぶりに減少しており、65歳以上の高齢者の割合は約7割で推移
- 65歳未満は「路上横臥」が多く、65歳以上は「横断歩道以外横断中」が多い

年齢層別歩行中死者数の推移（第1・第2当事者）
【各年6月末】



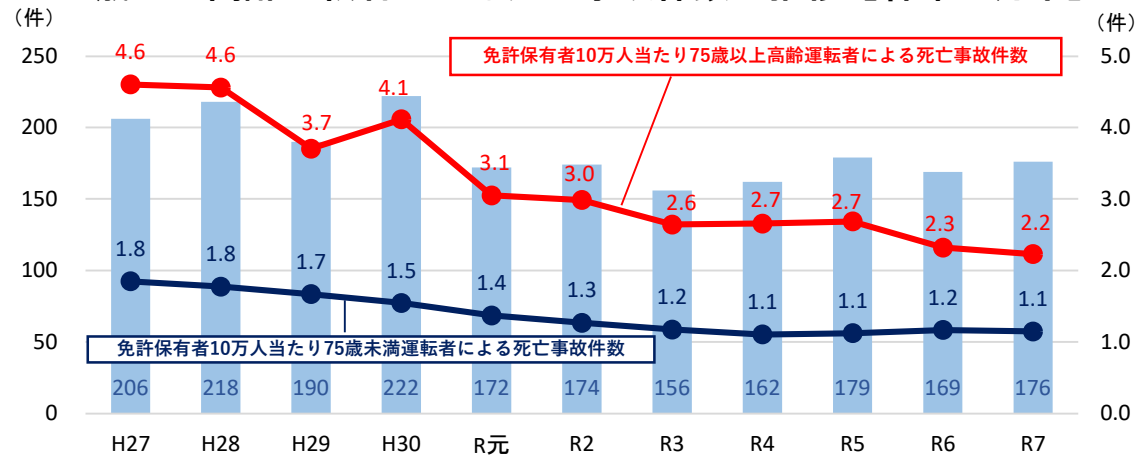
年齢層別事故類型別歩行中死者数比較（第1・第2当事者）
【各年6月末】



4 自動車～高齢運転者

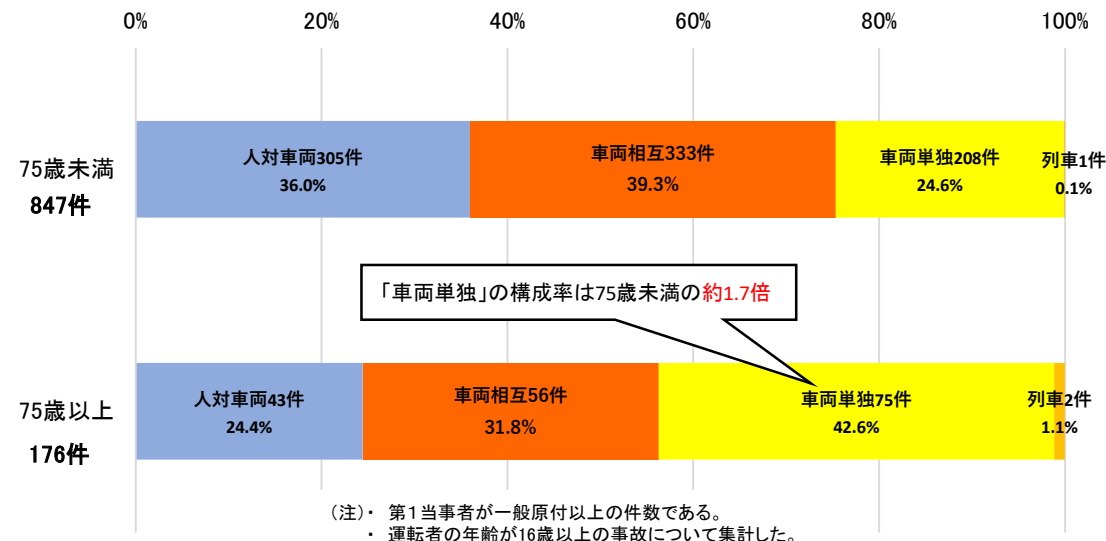
- 75歳以上高齢運転者による死亡事故は増加
- 事故類型は75歳以上高齢運転者は車両単独の構成率が最も高く、75歳未満の約1.7倍

75歳以上高齢運転者による死亡事故件数の推移【各年6月末】



(注)・第1当事者が一般原付以上の件数である。
 ・運転者の年齢が16歳以上の事故について集計した。
 ・算出に用いた免許保有者数は、各前年12月末の値である。

75歳以上高齢運転者による事故類型別死亡事故件数【令和7年6月末】

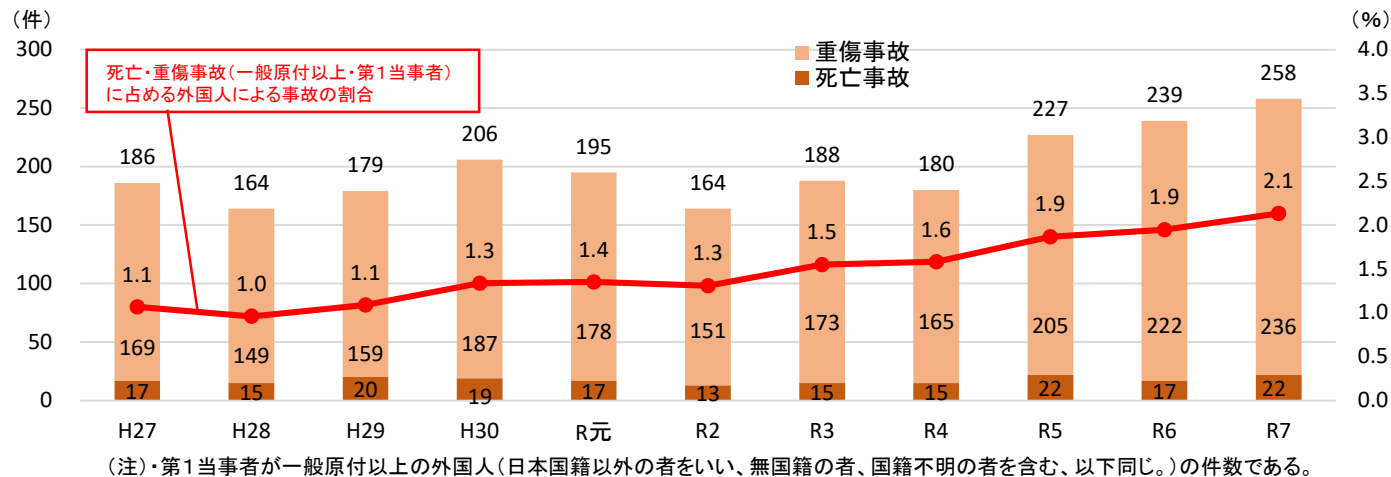


(注)・第1当事者が一般原付以上の件数である。
 ・運転者の年齢が16歳以上の事故について集計した。

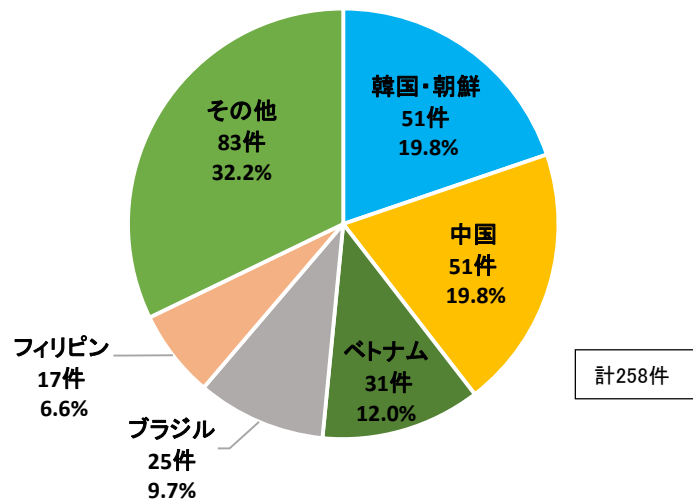
5 自動車～外国人運転者

- 外国人運転者による死亡・重傷事故は近年増加傾向
- 国籍(地域)別の構成率は、韓国・朝鮮、中国、ベトナム、ブラジル、フィリピンが全体の約7割

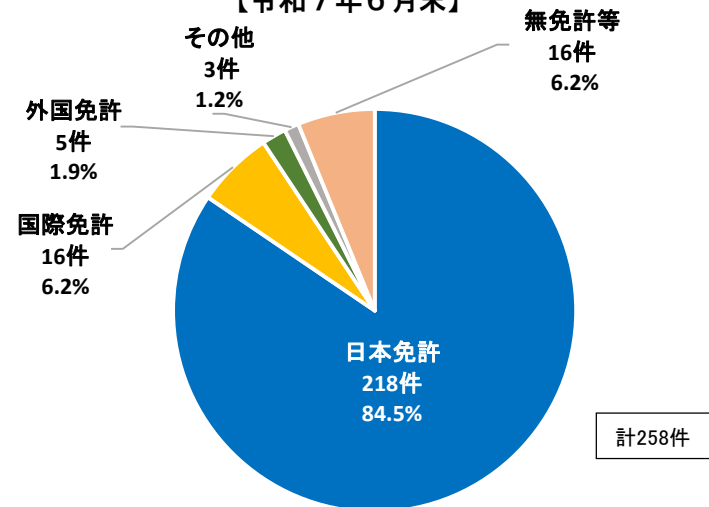
外国人運転者による死亡・重傷事故件数の推移【各年6月末】



国籍(地域)別外国人運転者による死亡・重傷事故件数【令和7年6月末】



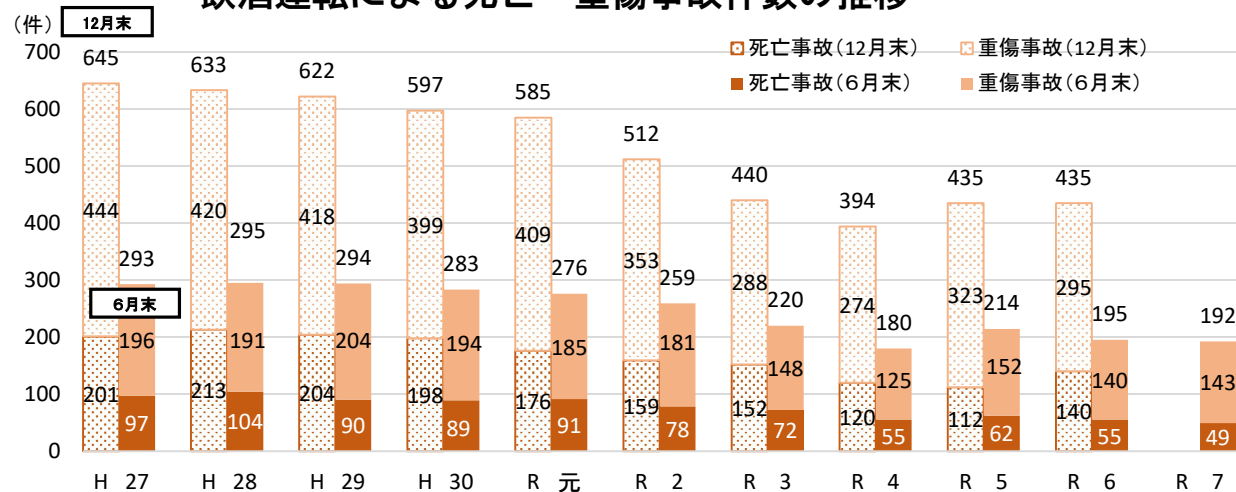
運転資格別外国人運転者による死亡・重傷事故件数【令和7年6月末】



6 自動車～飲酒運転・携帯電話等使用

- 飲酒運転による死亡事故は近年横ばいで推移
- 携帯電話等使用による死亡・重傷事故は近年増加傾向

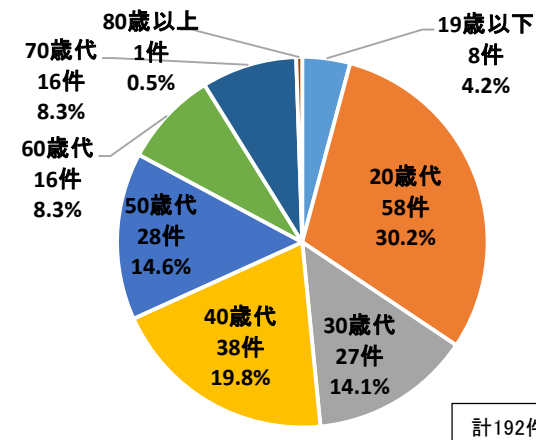
飲酒運転による死亡・重傷事故件数の推移



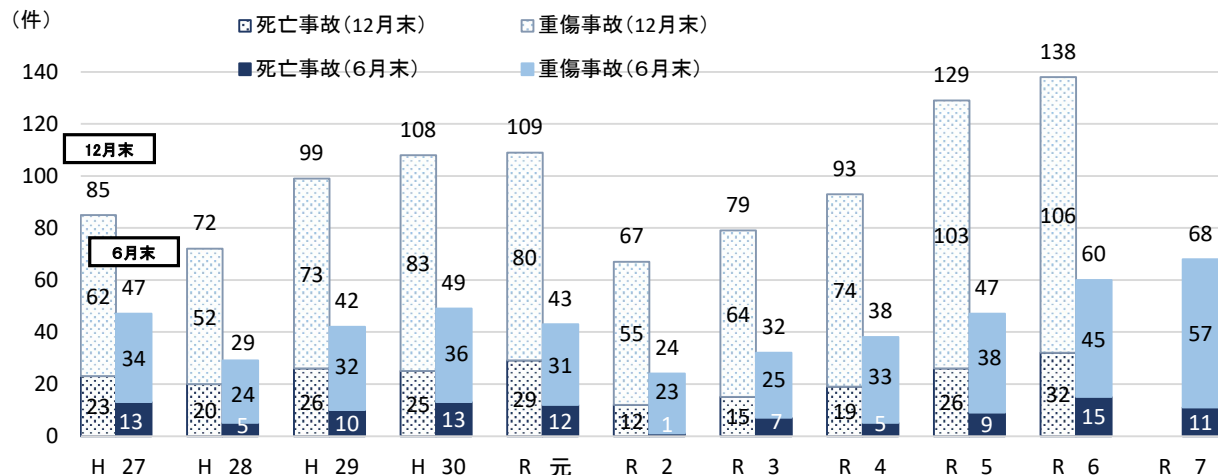
(注)・第1当事者が一般原付以上の件数である。

・「飲酒運転」とは、第1当事者の飲酒状況が酒酔い、酒気帯び、基準以下、検知不能のいずれかに該当するものをいう。

年齢層別飲酒死亡・重傷事故件数 (一般原付以上・第1当事者) 【令和7年6月末】



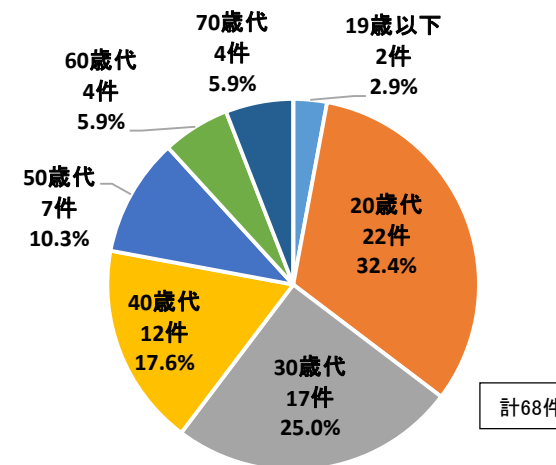
携帯電話等使用による死亡・重傷事故件数の推移



(注)・第1当事者が一般原付以上の件数である。

・携帯電話、スマートフォン等の使用が要因となって発生した事故を集計した。

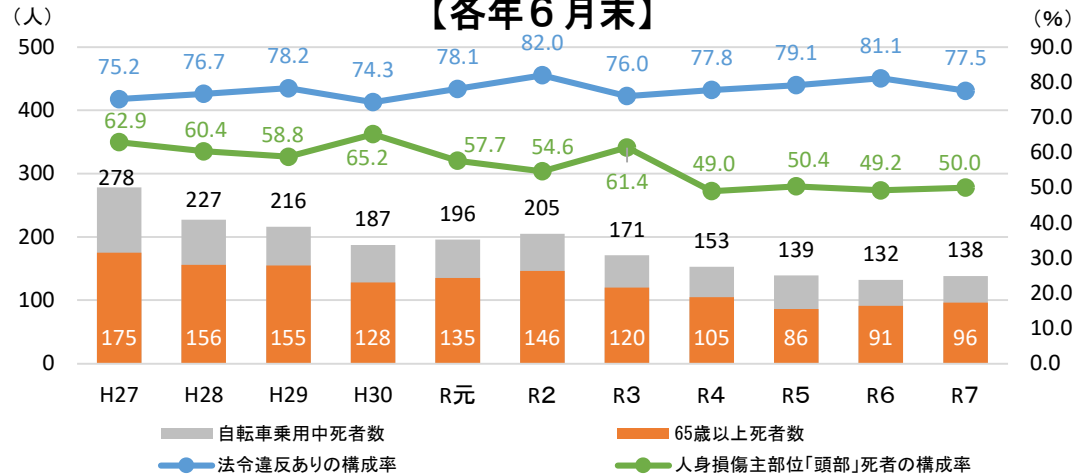
年齢層別携帯電話等使用死亡・重傷事故件数 (一般原付以上・第1当事者) 【令和7年6月末】



7 自転車

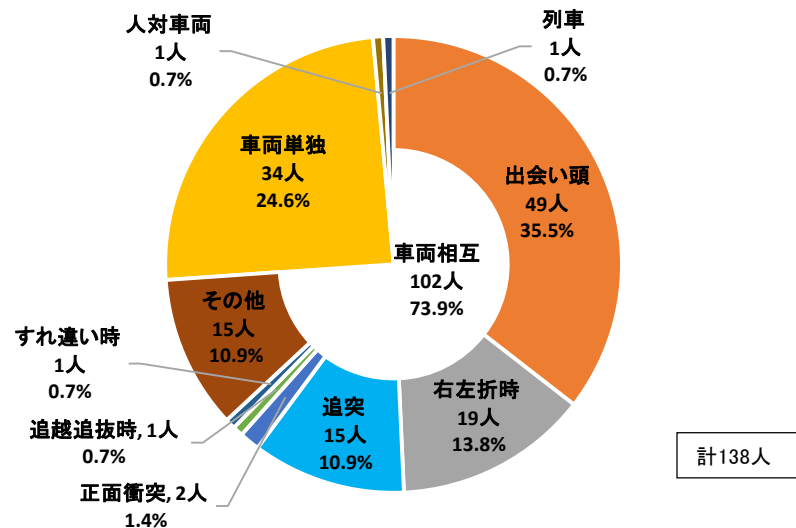
- 自転車乗用中の死者数は減少傾向にあるが、法令違反ありの割合は約7割から8割で高止まり
- 事故類型は車両相互の出会い頭が最も多い

自転車乗用中死者数（第1・第2当事者）の推移
【各年6月末】



法令違反あり死者数	209	174	169	139	153	168	130	119	110	107	107
人身損傷主部位「頭部」死者数	175	137	127	122	113	112	105	75	70	65	69

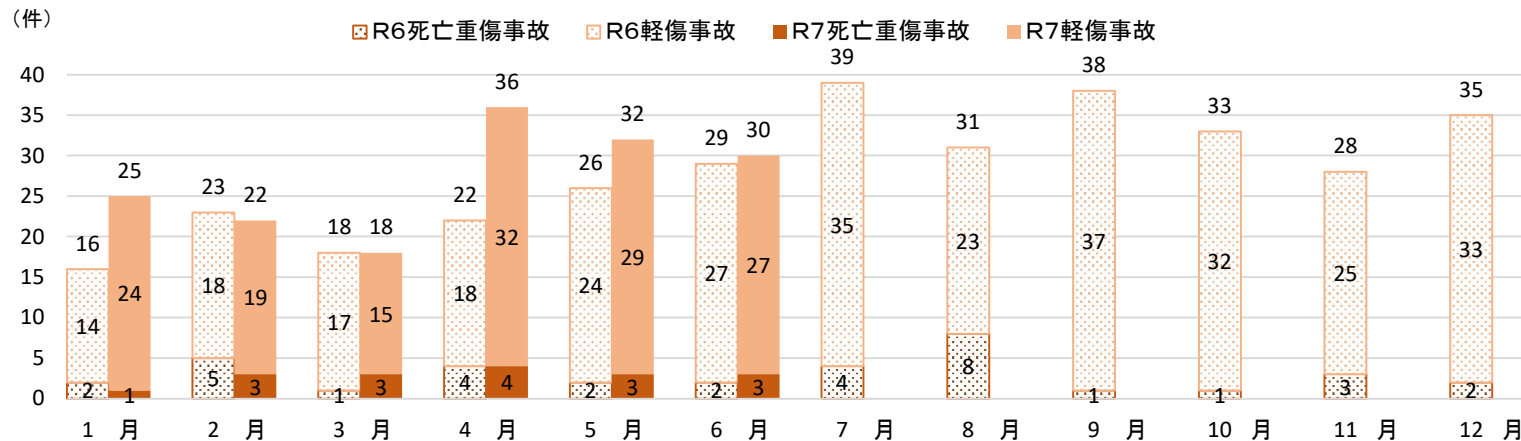
事故類型別自転車乗用中死者数（第1・第2当事者）【令和7年6月末】



8 特定小型原動機付自転車

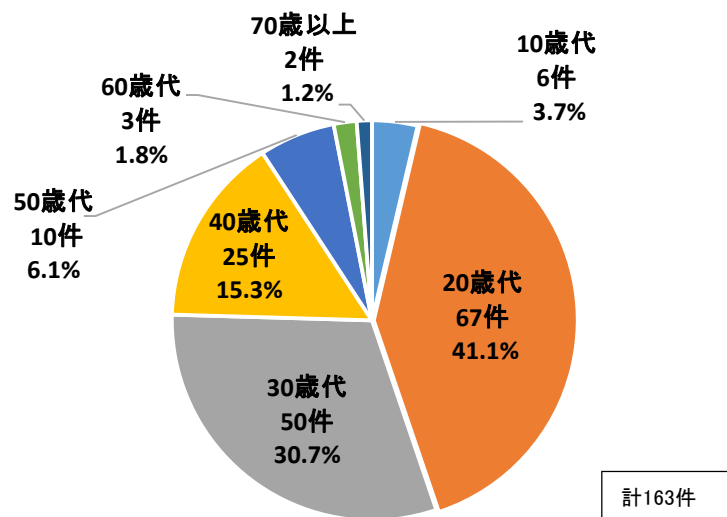
- 運転者の年齢層は20歳代～30歳代で約7割を占めている
- 飲酒ありの構成率は約2割で、一般原付の約30倍、自転車の約22倍

特定小型原動機付自転車関連交通事故件数の推移（月別）



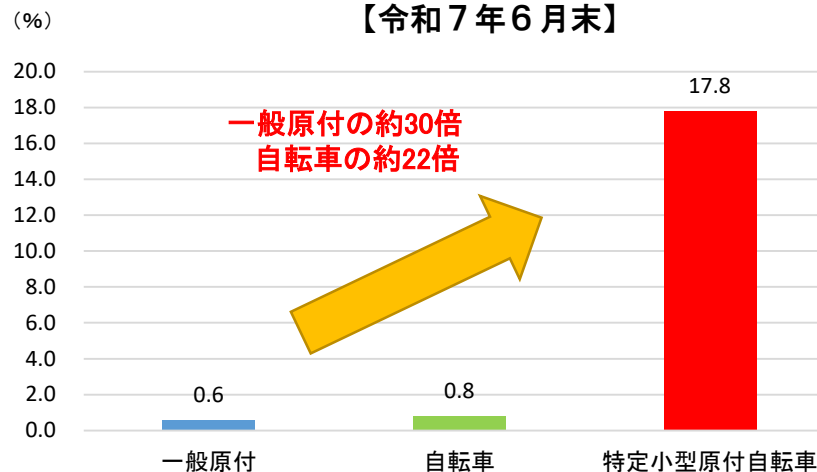
(注)・特定小型原動機付自転車が第1又は第2当事者となった事故について集計した。
・死亡重傷事故のうち死亡事故は計2件で、令和6年8月に1件、令和7年4月に1件である。

運転者の年齢層別交通事故件数【令和7年6月末】



(注)・特定小型原動機付自転車が第1又は第2当事者となった事故について集計した。

飲酒ありの構成率比較（第1・第2当事者）
【令和7年6月末】



(注)・飲酒ありの構成率は、それぞれの関連事故件数のうち、第1当事者又は第2当事者が飲酒あり(ただし飲酒あり同士の場合は1件とした)の事故件数の占める割合をいう。
・関連事故件数とは、それぞれの当事者が第1当事者又は第2当事者となった事故を計上したものの、ただし、それぞれの当事者相互事故(一般原付相互、自転車相互、特定小型原付自転車相互)は1件とした。